

いのち のち ひろば

毎月1回、中旬の水曜日に掲載

能登半島地震

JMAT活動記

小田原医師会(神奈川JMAT15班)

医師 石井 博司



いしいひろし 1966
9(昭和44)年12月9日
小田原市に生まれる。私立

浅野高校を経て佐賀医科大学医学部を卒業後、東海大学医学部呼吸器内科に入局。大学では睡眠時無呼吸症候群と各種生活習慣病の関連を研究。東京都済生会中央病院、東海大学医学部附属病院勤務を経て2012年に石井呼吸器内科医院を開業、同院長。



地震により道路が隆起(能登半島地震、写真ACCより)

【志賀町富来地域について】

能登半島西部、輪島の南に隣接する人口約2万の地域。岩礁地帯から砂浜、低山まで多様な地形で構成されていますが、今回の地震では輪島市門前町とならんで震度7を記録。輪島に近い北半部富来地域の被害が特に甚大でした。地域内はもともと小学校・中学校ともに1校のみで避難先は公民館や防災センター他の公共施設の比重が高く、震災当初は各施設に避難者が詰め込められていた、と避難者からうかがいました。もともと全国平均と比較し診療所の少ない地域で、地域医療において町立富来病院の占める比重が大きく、七尾市や金沢など外部の医療機関に通う方も多い地域であったようですが、今回まさに病院のあった地域周辺で大きな被害があったようです。町の南半志賀地域では1月10日以前には病院・診療所の活動が復旧してきた、とつかがいました。訪問時点で富来病院ではプレハブで病床を最低限確保、常勤医師数が十分ではなく救急/発熱外来を当面JMAT

に委託する、とのことでTに委託する、とのことで診療所もすべて診療を再開したものの、震災以前の状況に戻っているところは7割程度、との報告も行政からありました。

- 14日 午後避難所2カ所
- 15日 午前町立富来病院(救急・発熱外来)
- 16日 午後避難所2カ所
富来地域の避難所3カ所・南半志賀地域の避難所1カ所
- 17日 午前避難所1カ所

【医療支援活動について】

筆者らが訪問した時期は震災から70日余りが経過し、該当地域でも仮設住宅などへの設営・入居が進み始め、避難所の入所者は明瞭に減少、町全体の避難所自体も統合・整理を始めていた状況でした。残っている避難者の方は圧倒的に高齢者が多く、災害弱者の性格について配慮する必要がある方々でしたが、そのような方も病院・診療所の再開に伴い通院を再開している、道路の復旧/薬局の再開から内服薬も普段のものも確保されている状況で、災害支援的な医療ニーズは確実に低下している状況でした(災害当初のDMAT、JMAT、JDATなど各

隊の活動が有効であったとの感謝の言葉があちこちでありました。訪問時各避難所に残っている方は概ね2割以下で、だいたいの方は自宅の片づけやデイサービスなどにでかけていて、残っているわずかな方に計4日間診察6名、ヒアリングを40名ほど実施しました。訪問期間中COVID-19陽性を1名診察しましたが自宅避難の方で、避難所では特に感染症の発生は報告されませんでした。上記の上記の上行政、部が協議、部は3月22日13時、能登半島から小田原

【情報伝達の重要性】

活動中頻りにSNSで相互に連絡をとり、また15日と16日の夕方には志賀町役場にて保健師会議に出席、該当地域で活動している行政、DWAAT(保健師)、JRAAT(リハビリ)、現地の医師と情報を交換しまし

た。15日の会議で現地行政の保健師・DWAATの2チームと個別に顔合わせ、課題について情報共有をしましたが、翌16日には前日顔合わせした方から報告を受け86歳下肢痛の方を診察することとなりました。医療介護における多職種連携の意義は災害の場でこそ発揮される、との感を深めた次第です。

【JMATについて】

日本医師会が組織する災害医療チーム。神奈川県医師会では令和6年2月1日より、宿泊・ライフラインを自活しうるタイプAと、自活せず金沢から連日支援先

今月のひらひら

災害は

いつくるもの、わからず明日に備えて 今日のみ

次回は5月中旬に「たばこの害について」を掲載予定です。

【活動開始まで】

医師1名・看護師1名・ボランティア2名からなる支援チームは3月14日早朝小田原駅を発、新幹線で金沢駅まで行き、医師会が手配しているレンタカーに乗車の上JMAT調整本部のある石川県庁で概略の説明を受け、その後七尾市に移動(13時過ぎ)。能登中部保健福祉センターで活動地域・施設内

容について統括JMAT(能登中部調整支部)にて活動内容を調整。宮城県医師会)と前の班から引継ぎを受け、以降JMAT15班として能登中部でも特に被害の大きかった志賀町富来地域で活動することになりました。現状能登中部以南では道路の復旧はかなり進んでおり、2時間はかからな



志賀町富来地域福祉センターにて患者を診察

